

用語集

内水被害

堤内地[※]の排水用の水路や小河川を流れる水を内水といいます。こうした内水は、通常はより大きな川へ自然に排水されますが、強い雨が降ると大きな川への排水が困難になり、堤内地に水があふれることとなります。このようにして起きる浸水被害を内水被害といいます。

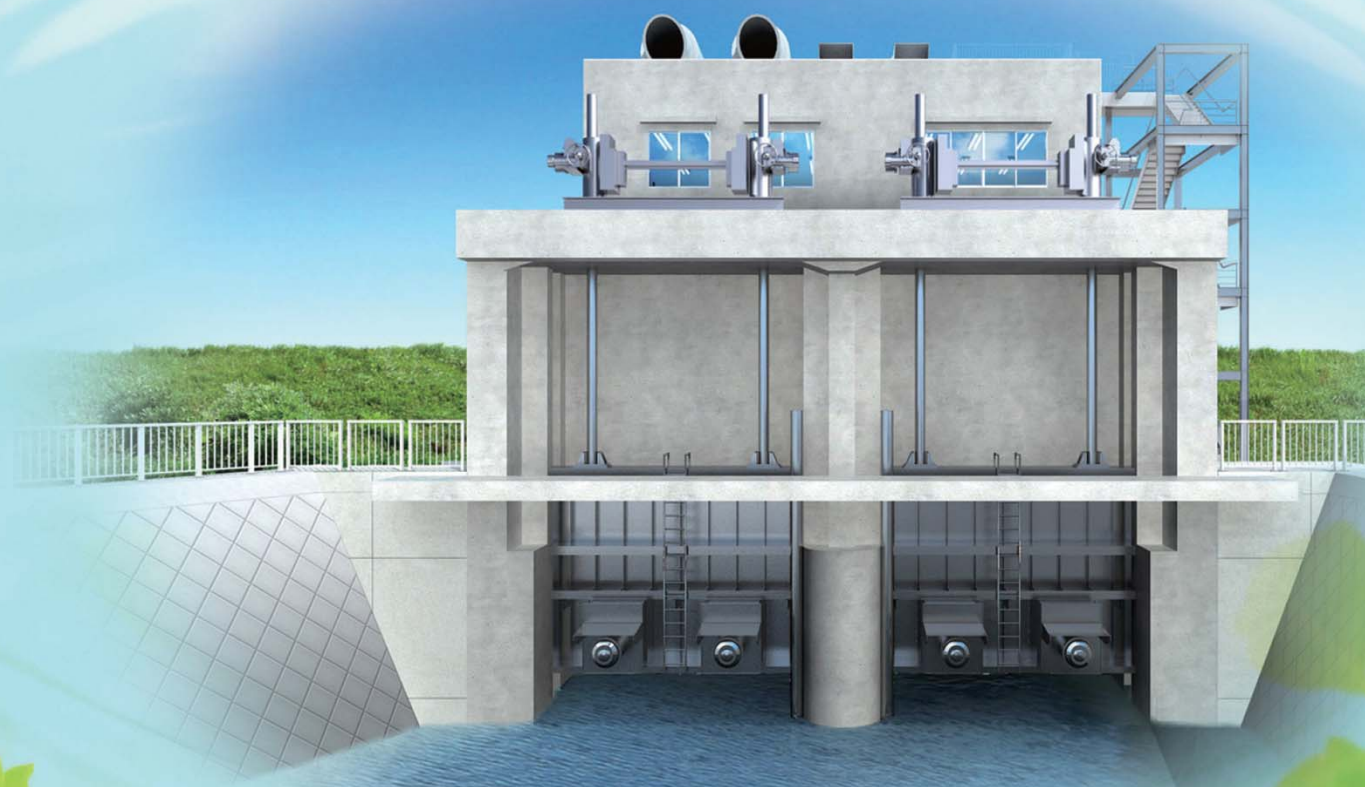
※)堤内地
河岸に設けられた堤防に対して、河川の反対側にあたる住居や田畑が作られる側の土地を堤内地といいます。これに対して、堤防の河川側の土地を堤外地といいます。

排水機場

大きな川へ自然に内水を排水できなくなるような強い雨が降った時に、電気やディーゼルエンジンなどの動力を使って内水をポンプアップして川へ排水し、内水被害を防止する施設を排水機場といいます。

一級河川太田川水系新安川河川改修事業

新安川排水機場



連絡先

広島県

土木局河川課

〒730-8511

広島市中区基町10-52

TEL 082(228)2111 (代表)

西部建設事務所

〒732-0816

広島市南区比治山本町16-12

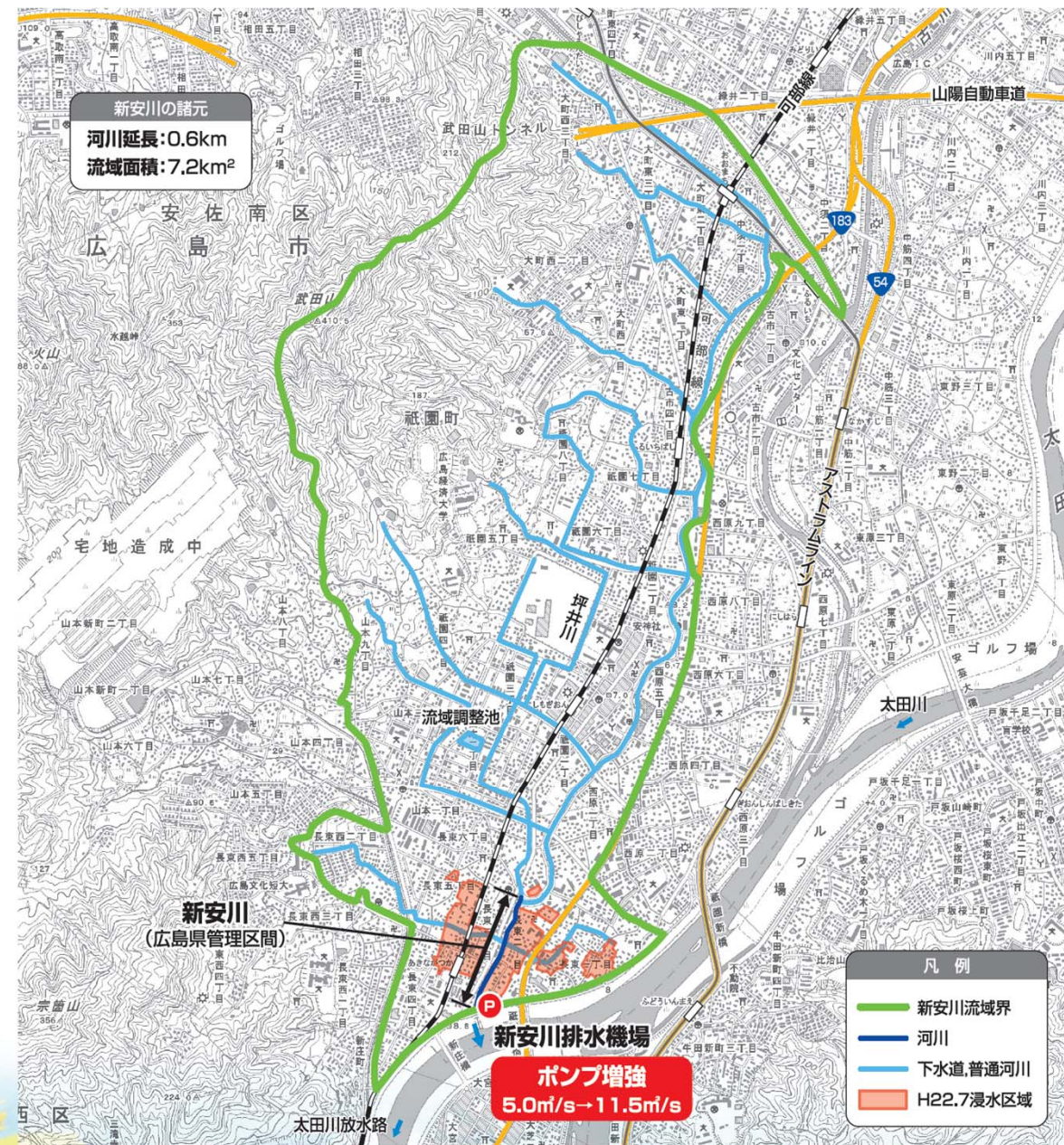
TEL 082(250)8151 (代表)

広島県

事業の目的

広島市安佐南区に位置する新安川周辺は、交通経済上重要な地域であるため、都市化が急速に進んでいます。都市化の進展により、従来の保水・遊水機能が低下し、河川への降雨の流出が増大したことで、浸水被害が増加しています。このため、河川や下水道等の整備を行っています。しかしながら、本川の太田川放水路の水位が高い場合の豪雨に対しては、支川の新安川の排水機場の排水能力不足から、内水被害が頻発しており、近年でも、平成17年9月の台風14号、平成22年7月の豪雨などで、床上浸水を含む甚大な被害が発生しています。

そこで、新安川下流端の太田川放水路合流部に排水機場を増設し、排水ポンプを増強することで、こうした内水被害を防止または軽減するものです。



※国土地理院発行数値地図25000(地図画像)を使用

浸水被害の状況

平成17年9月の台風14号、平成22年7月の梅雨前線豪雨では、床上浸水を含む甚大な被害が発生しました。

平成22年7月梅雨前線豪雨による浸水区域と被害状況



※広島市下水道局河川課 資料に基づき作成
※国土地理院発行正射画像(オルソ空中写真)データを使用



近年の内水被害

被害発生年月日	原因	浸水家屋数(戸)			浸水面積(ha)
		床上	床下	合計	
平成17年9月6日	台風14号	7	2	9	0.1
平成22年7月14日	梅雨前線豪雨	11	527	538	18.5